

平成29年度 第2回
京都府独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構運営協議会
近畿職業能力開発大学校京都校部会 開催概要

1. 開催日時

平成30年2月9日（金） 13:30～15:00

2. 開催場所

京都職業能力開発短期大学校2号館2階会議室 舞鶴市上安1922番地

3. 主な議題

- (1) 平成29年度の業務実施状況について
- (2) 平成30年度の業務計画について

4. 議事経過

資料に沿って、事務局から説明が行われた後、意見交換が行われました。各委員からの主な意見は以下のとおりです。

- 過疎化、少子化が進む中、小学生等の低年齢層にまで対象を広げて、IT関係の台頭に泳がされず、ものづくりに興味をもってもらえるよう出前講座を行うなど、長期的なスパンで見えていかないといけない。
- 募集活動に力を入れていただいたが、結果的には応募が少なかった。1校から突出してたくさんの応募があっても、それが続かないと応募倍率は落ちると、昨年指摘させてもらったが、やはりそういう結果になり残念である。
- 社会や生徒が本当に必要としているものをニーズとして掴み、学校としてそれに答えられているか。そして、難しいことであるが、それが優しい言葉で伝わっているかが重要である。
- 募集の時期だけでなく、次年度に向けて通年で広報するというのは、高校の先生に知っていただく機会を増やすという点で非常に良いことだ。
- 京都短大の名前を聞く機会も増えて、少しずつ浸透が図られているのではないかと思う。
- 以前よりはるかに努力されているが、実際の応募者数が増えてこないというのは疑問である。
- なぜ生徒が京都短大を選ばないのかという理由をもっとしっかりと考えないといけない。高校の進路指導の先生に知ってもらうのも大事だが、その先をどうするのか。最終的に行くか行かないかを決める生徒に魅力を感じてもらえるかが重要である。
- 舞鶴の雇用情勢として、新規求職者のうち在職者の割合が多いことが特徴である。多くの在職者がより良い条件での転職を考えていると思われる。
- 京都短大と地域の企業が連携し、地域採用の優先枠として京都短大の修了生を数名採用するなどの取り組みを行うと、京都短大はもっと学生が増えていくのではないか。
- 高校生が京都短大修了後の自分の将来像を描けることが重要である。
- 応募倍率について、今年度は残念な結果であるが、この結果にへこたれず、効果が出るまでしっかりやってほしい。
- 中学生等の若年層から広報し、京都短大の良さである指導員と設備を直接見てもらうことで「職業訓練校」のイメージを払拭し、京都短大修了生の素晴らしさを伝えてほしい。



近畿職業能力開発大学校京都校部会委員名簿

(敬称略)

氏 名	所 属 及 び 役 職 名
高 橋 裕 行 (欠 席)	京都府立福知山高等技術専門校 校長
小 林 茂 (高橋委員代理)	京都府立福知山高等技術専門校 訓練企画課長
長 柄 俊 治 (欠 席)	日本労働組合総連合会京都府連合会北部地域協議会 議長
田 淵 末 浩 (長柄委員代理)	日本労働組合総連合会京都府連合会北部地域協議会 事務局長
瀬 川 甫	舞鶴商工会議所 専務理事
黒 石 悟	京都府中小企業団体中央会 北部事務所 所長
寺 田 昭 夫	丹後機械工業協同組合 常務理事
足 立 由 紀 夫	一般社団法人綾部工業研修所 代表理事 日東精工株式会社 常務取締役
田 中 政 旭	舞鶴工業集積協議会 会長
小 瀬 康 行	京都府商工労働観光部人づくり推進課 課長
山 田 剛	舞鶴公共職業安定所 所長
砂 原 由 明 《 座 長 》	舞鶴市産業振興部 部長